

佳作



Hugで出会おう、新しい私

板林 恵

大船渡市の盛駅前のセレクトショップ「Hug」には、レディース服や子ども服、アクセサリなどのおしゃれで洗練されたアイテムが並ぶ。オーナーの鈴木雅美さんが、シンプルで流行に左右されないもの、かつ機能的にも優れたものをセレクトしている。

Hugという店名は、鈴木さんがハグが好きでいろんな人にハグしてしまいうから。「Hugのお洋服を着て、この空間に包まれるような温もりで心を満たして」という思いを込めた。2児の子育て経験から店内中央にはキッズスペース、窓側には「お茶っこ」スペースを設け「ママがゆっくり買い物と息抜きできる場所に」という夢を叶えた。

お洋服ってすごい！

鈴木さんにとっておしゃれとは「誰かに見せるためではなく、自分のテンションを上げるため」だ。

そんなおしゃれとの出会いは「陰キャ」だった高校時代にさかのぼる。当時、地元の一関市のファッション店に訪れた際、店員が勧めた「Tシャツとキャミソールの重ね着」の可愛さに驚いた。また、その洋服が自分をポジティブにしてくれることにも。そしておしゃれが大好きになった。

大学卒業後、約20年にわたり福祉事業に従事。仕事は充実していたが、大好きなおしゃれは「休日だけのお楽しみ」とせざるを得なかった。異動を機に今後のキャリアを見つめ直したところ「これは本当に私がやりたいことだろうか」というモヤモヤがぬぐえなくなった。

ある日のランチ中、これを友人に打ち明けると「結局、雅美ちゃんは何がしたいの？」と訊かれ「お洋服屋さん」と迷わず答えた。「お金のことや、お嫁さん・母親といった「自分をしばる鎖」をすべて除外して純粹に考えたらすぐに答えが出た」と話す。

友人の「じゃあ、それなんじゃない」という言葉に後押しされ出店を決意するも、アパレル経験はゼロ。服の仕入れ方法も分からず、愛用ブランドにDMを送り見事取引にこぎつけるなど、思いを言葉にすると行動が変わり、物事が動き出すのだと起業を経て気づかされた。誰かの背中を押ししたい

現在Hugでは、さまざまな世代の人が鈴木さんとの洋服選びや会話を楽しんでいる。

「単にお洋服を売りたいのではなく、息抜きの延長で気に入る物があったらどうぞ、くらいなんです。笑顔で帰るお客さんを見送るのが幸せ。『買わないと気まずい』って思わないで

ほしいです。あと、迷っている人がいるなら背中を押したい。だって願いを叶える人が1人でも増えて、その人が輝いたら、もっと素敵な町になると思うから。『夢が叶いました』という言葉がモチベーションかな。思い返せばワクワクすることを、ちゃんと自分で選択してきたのかもしれない」

そうキラキラした表情で話す鈴木さんが印象的だった。

あなたもHugの洋服や空間に包まれ、ワクワクやポジティブな気持ちを見つけてみないだろうか。新しい自分に出会えるかもしれない。

※コラムの著作権は、すべて執筆者に帰属しています。無断での転載、使用はご遠慮ください。